

しかし、利便性の裏には課題もある。AIが誤った内容を示す可能性や、情報の偏りが判断を左右する懸念は拭えない。SNSでは注目を集める目的で過激な主張や不確かな情報が拡散される例も見られる。技術を使いこなす力と冷静な見極めが重要である。

少子高齢化が進み、人手不足が深刻化する日本にとってAIは、DXを支える要素としても、必要不可欠となった。また、AIの加速度的な進展は先端半導体の需要拡大と直結する。米国、中国、EUなどはこの分野を国家戦略の中心に据え、主導権争いを強めている。

高市政権も成長戦略の柱としてAIと半導体を掲げ、経済安全保障の観点から国内完結型の供給体制を目指す方針を示した。AI政策と半導体政策が一体となって、強い日本を取り戻さなければならない。

港湾分野でも変革は急務である。自動化や電子化が進む海外の主要港に比べ、日本は後れを取っていると指摘される。AIを活用すれば、労働力不足への対応や災害対策、脱炭素化の推進など多くの課題に道が開ける。競争力を高め、国際物流の中で日本の港湾の存在感を示す取り組みが求められている。

*:**

2 トピック

*:**~*~*~*~*

●小樽港防波堤施設(北防波堤、南防波堤、島防波堤)、国の重要文化財に新指定

北海道開発局小樽開発建設部小樽港湾事務所

令和7年10月24日、小樽港の北防波堤・南防波堤・島防波堤の三施設について、国の文化審議会が文部科学大臣へ重要文化財への指定を答申しました。その後、令和8年1月15日に官報告示され、これら三施設は正式に国の重要文化財に指定されました。

これらの防波堤は、明治から大正期にかけて建設され、100年を超えてなお激浪の衝撃に耐え続け小樽港を護り続けてきた、明治期及び大正期の最高水準の港湾技術による土木構造物です。コンクリートの巨塊を傾斜させて積む手法と巨大な鉄筋コンクリート造ケーソンによる安定性に優れた構造で築かれ、火山灰を配合して経済性と強度を両立した高度なコンクリート技術も用いられています。また、日本人技術者が調査、計画、設計、製作、施工までの全てを統括して、第1線防波堤として初めて完成させたことも特筆すべき点です。

北海道開拓の重要拠点、港湾都市小樽の発展を支え続けた記念碑的な小樽港防波堤施設が、このたび北海道開発局の土木構造物として初めて重要文化財に指定されたことを深く誇りに存じます。今後も、先人の技術と精神を継承し、これら歴史的資産の保全と活用に一層努めてまいります。



小樽港防波堤施設



●クルーズ船乗客に佐渡をもっと楽しんでもらうためには

北陸地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室

令和5年3月に国際クルーズの運航が再開し、本州最大の島である佐渡においてもクルーズ船の寄港数が順調に回復してきています。令和6年7月の「佐渡島の金山(さどのきんざん)」世界文化遺産登録をきっかけに、これから観光客がさらに増えることが予想されています。

今回、北陸地方整備局ではクルーズ船の乗客に、より寄港地を楽しんでいただくため、「二次交通」をテーマに実証事業を行いました。

二次交通とは、クルーズ船や電車・飛行機で到着した方が、街のいろいろな場所へ移動するときに利用する交通手段のことです。たとえば、バスやタクシーなどがこれにあたります。二次交通が便利になると、乗客の満足度向上だけでなく、立ち寄り先や滞在時間の増加により、地域への経済効果拡大にもつながると期待されています。

現地実証事業は、6月に小木港、9月に両津港に寄港するクルーズ船の旅客を対象に計2回実施しました。用意した交通手段はシャトルバス、ガイド・運転手付きグリーンスローモビリティ※、ガイド付きタクシーの3種類です。当日は数多くの方にご利用いただき、「同乗した地元ガイドの説明が楽しかった」等の好意的なご意見をいただきました。

今回の現地実証事業は、北陸地方整備局が中心となって計画し、新潟県や佐渡市、観光団体や交通事業者らで構成する「佐渡クルーズ船二次交通連絡会」で出された意見を反映させて進めました。実証で得られた効果や課題は、連絡会で検証し、今後もより魅力ある寄港地となるよう取り組んでいきます。

※時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス



グリーンスローモビリティ



↑左からグリーンスローモビリティ、シャトルバス、タクシー

●第15回鹿島灘はまぐり祭りを開催しました

鹿嶋市経済振興部 農林水産課

令和7年12月14日(日)、鹿島灘漁業協同組合魚市場において「第15回鹿島灘はまぐり祭り」が開催されました。

鹿島灘はまぐり祭りは、鹿島灘漁業協同組合を中心に、鹿嶋市・神栖市・銚田市の3市と港湾関係団体が連携し、地元水産物と鹿島港の整備内容などを地域の皆様へ広くPRすることを目的に実施しています。

今年は、鹿嶋市市制施行30周年、神栖市・銚田市市制施行20周年の記念事業として実施し、例年以上に注目を集めました。

会場では、鹿島灘はまぐりをはじめ、鹿島たこや常陸乃国しらすなど、鹿島灘で獲れる豊富な水産物の販売や模擬セリ、ヒラメの放流事業が行われ、終日活気にあふれました。

茨城県港湾空港建設協会によりパネル展示やテトラポッド製作体験コーナーが設けられ、港湾整備に必要な港湾土木の技術力などをPRしていただきました。また、関東地方整備局港湾空港部とコラボした「仕事猫」も応援に駆け付け、会場を盛り上げていただきました。

今後も、漁業者と行政、港湾関係団体などが一体となり、水産業のさらなる発展を目指してまいります。



獲れたて新鮮な「鹿島灘はまぐり」



会場を盛り上げた「仕事猫」・パネル展示の様子

●志布志港で「海的环境学習とアマモ苗付け」を開催しました！

九州地方整備局 志布志港湾事務所

令和8年2月11日(水)、志布志港で昨年度に引き続き2回目となる「海的环境学習とアマモの苗付け」を開催し、約40名の市民が参加しました。

開催に先立ち、第20期かごしまこども環境大臣が「かごしまこども環境宣言」を行いました。海的环境学習では、テーブルに置いた水槽の中のアマモと生き物を観察しながら、「志布志の海の生き物」や「アマモの役割」、「ブルーカーボン」などについて学びました。

アマモの苗付けでは、参加者・スタッフ全員でアマモの苗付けの準備を行い、その後、地元のダイバーたちが海に潜ってアマモの苗付けを行いました。このほか、「海の生き物観察会」や「ダイバー体験学習」を行いました。

参加した小学生からは、「アマモが大きくなって、魚が元気に暮らしてほしい」、「アマモをもっと増やしていきたい」といった声がありました。

今後も、地域の方々と一緒にアマモを通じた海的环境学習やブルーカーボンの取り組みを継続し、みなとの環境の保全や港の脱炭素化に努めてまいります。



●比屋根湿地・泡瀬海岸清掃

内閣府沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 中城湾港出張所

令和8年2月1日(日)に「比屋根湿地・泡瀬海岸清掃」を実施し、地域の住民や沖縄市建設関連団体協力会、市内外の企業、国・県・市など 124 団体 357 人が参加しました。

平成23年度から継続している比屋根湿地・泡瀬海岸清掃は、貴重な自然が残る湿地や海岸周辺のごみの不法投棄を無くし、多様な生物が生き生きと暮らせる環境を維持・保全することを目的に、沖縄市と東部海浜開発推進協議会の共催で、比屋根・泡瀬自治会や企業等と沖縄県、沖縄総合事務局中城湾港出張所が一体となった定期的なボランティア清掃活動に取り組んでいます。

清掃に参加された皆様で、比屋根湿地や周辺の歩道などのゴミ拾いや、湿地の景観等を妨げていた木々の伐採を行い、泡瀬海岸では、打ち上げられたゴミ拾い等も行いました。

当日の比屋根湿地・泡瀬海岸、周辺の歩道などで草木の伐採やゴミ拾いで回収した数量は、合計で約6トンでした。

今後も定期的なボランティア清掃活動を行い、良好な自然環境を維持していくことに努めてまいります。



湿地周辺の草木伐採の様子



海岸ゴミ拾いの様子



草木伐採前→伐採後



回収したゴミ

